

# 顕 彰 状

川淵三郎氏は1936年12月3日に大阪府高石市（現）に生まれた。演劇活動や野球に親しんでいた氏のサッカーとの接点は大阪府立三国丘高校にあり、在学中だけではなく、浪人中にもOBとして活躍し、本大学OB川本泰三氏に才能を見いだされた。川本氏の勧めもあり、1957年に第二商学部に入學した川淵氏は1年次からア式蹴球部にてレギュラーの地位を獲得し、2年次には日本代表に選抜された。4年次（1960年）には日本サッカー協会から日本代表強化の一環としてヨーロッパ遠征に派遣された。大學卒業後は古河電工に入社し、同チームの主力選手として活躍する傍ら、日本代表の一員としてオリンピックを目指し、ローマ大会への出場は叶わなかったが、1964年の東京大会ではベスト8に入る原動力の一人として貢献した。1970年に選手としての現役を引退するが、引き続き、古河電工チームにおいてコーチを経て、1976年まで監督を務めた。

1988年以降、氏は一層本格的にサッカー界にかかわるようになり、さまざま新機軸を提案し、世間の耳目を惹くことになった。1988年にJSL（日本リーグ）総務主事に就任すると、日本サッカー強化のためにプロ・リーグ立ち上げに奔走し、それは1991年のJリーグ創設（同チェアマン就任；1993年開幕）により実現した。1991年には日本サッカー協会強化委員長として代表チームの強化に取り組み、成果の一端は1992年のアジアカップ優勝、ワールドカップのフランス大会（1998年開催）出場決定（1996年）等に結実した。招致に尽力した2002年ワールドカップ日韓大会が成功裡に終了した後、氏は軌道に乗ったJリーグのチェアマン職を辞し、日本サッカー協会会長に就任すると、キャプテンズ・ミッションズという重点施策を掲げ、サッカー界の改革に取り組んだ。これらの諸点は氏のサッカー界に対する貢献の一部に過ぎず、枚挙に遑がないほど多方面に及んでおり、2006年第56回国際サッカー連盟（FIFA）総会においてFIFA功労賞（日本人として2人目）を授与されている。

しかるに、氏の真価は、単にサッカー界に対する貢献にとどまらず、本學在学中、ヨーロッパ遠征で得た教訓をわが国において実現せんものと現在も邁進していることにある。中でも、都道府県サッカー協会を整備・法人化し、運営の健全化、情報公開を推進するとともに、代表選手試合、Jリーグ等で獲得した収益を充当し、地方協会を核とする地域総合スポーツ事業の振興・地域社会の活性化、青少年の育成等に尽力していることは特筆に値する。こうした事業の成果は確実に現れている。

ここに早稲田大學は、サッカー界、地域スポーツ振興および早稲田大學に対する永年にわたる多大なる功績と献身に対して、川淵三郎氏を早稲田大學スポーツ功労者として表彰し、その名譽を永く讃えるものである。

2009年4月1日

早 稲 田 大 学